
笑えばいいじゃない

怒酔虎威

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑えばいいじゃない

【Zコード】

Z8331-I

【作者名】

怒酔虎威

【あらすじ】

時は平成！？

日本のどつかに生まれた鼻毛丸の壮絶人生！
笑い転げること間違いなし！
自負するな作者！

プロローグ

ああ・・・・・・・。

自分なんて駄目だ・・・・・。

何だコノ名前は

怠慢か！？それとも親のハツ当たりか！？

何とか13歳まで生きてきたが、何だこの名前は悲しくて仕方が無かつたわ！

そして作者のネーミングセンスを疑うわ！

「ふはははははは

目覚ましの音が鳴る、ていうか笑い声だ。

昨晚、父が「嫌がらせ！」と言つて買つてきた。

5万8900円だ。バカにしてんのか！

ろくに働きもせず、家で専ら音楽を聴いている

音楽を聴くことに異議を申し立てるつもりはないが、働いてくれ！

そして瘦せてくれ！

僕は着替えて、早速学校に行こうとした。

母が、「待ちなさい。パンをくわえながらでも朝食は食べなさい。そして角で女子高生とぶつかればいいじゃない。運命感じなさい」

「母さん、ベタです。今時そんな人はいません。ていうか女子高生とぶつかっても学校で運命に出会えません。ちゃんと考えよう！」

「こちこち口ひるやこデブめ。」

「最低だなあんたは。ていうか「アブ」はあそここいるんだけど。」

「あー本当に。オイ、いちいち口臭いデブめ。」

「いや何あんたのその罵罵雜言はーへれつをと畜つてゐ」と変わつてるし。」

「僕が口臭いのは歯を磨いてないからだ！！」

「威張るなー！ いつか歯くらいで磨けやー本当に臭つ。」

「やっぱり昨日の賞味期限が10年過ぎたプリンがいけなかつたか何で無事なのか意味不明だ。ていうか10年で・・・・。捨てるのが定石だ。」

こんなアホどもと関わると学校に遅れるので、とりあえずパンをくわえて家を出た。結局くわえるのだ。

そして角で何かとぶつかつた。まさか運命の出会い？
と思つたらグリズリーだつた。朝から走馬灯を見てしまつた。

学校に着く。

通称ウザさん。·1のウホホイ竹中が僕に走り寄る。
僕に「お前マルチメディア」と意味不明のことを言つてきたので、
僕は何のためらいも無く、鉛筆を頭の芯めがけて投げた。
すると相手は残像を出して避けた！と思つたら避けきれてなかつた。
頭にHIT！助けてくれと言わんばかりの顔で見つめてくる
あなたはどうする？

- A・戦う
- B・素直に取る
- C・逃走
- D・らりるれ肋骨

Dはなんだろ？。

魔が差したのか？

つづく。・・・・。

プロローグの続き

学校である。

前回の投稿で何か変な四択が出てきたがスルーしてOKである。

さて、授業だ。

鼻毛丸（名前、ダサつ）は微妙な気持ちで座っていた。

彼が苦手な教科はそう！理香だ！（誰だ！）

理科だ。何故間違えたのか意味不明だ。新手の文字数稼ぎか！？

彼は理科が大嫌いだ。2分野が

何故1分野が苦手ではないか疑問に思つ所だがこれは個人差があるのでスルーしよう。

特に生物の所が嫌いらしい。なにゆえ？

最初図を見て答える問題で図中にイモリがいた。いやがったのだ。それを鼻毛丸は分からなかつた。

「こいつ何やねん！」みたいな感じだつた。

訳も分からずサナダメシと書いた。

普通はサナダメシの方を知らないはずだ。

何故この糸虫の名前が出たかは分からない。とりあえずその名前を答えたのだ。アホだ！

彼は理科の授業は寝ていた。この不良め！

すると理科の先生のゴンザレス・ルシファー・山本が起こしにかかりた。

この先生名前やばいな。

「起きNASAい！」

「！？ 先生今NASAって・・・？」

「眞のせじよ」

会話から分かると思つが、この先生おぞましい名前の鬱には女である。

ただし顔は何ともいえない。

想像上の動物（龍とか鳳凰とか麒麟など）もダッシュで逃げ出すほどのモノである。

その先生が笑顔だ。怖つ

鼻毛丸は飛び起きた。

「こんざ・・・・面倒くさいから端折りう。

山本が何やら特異のブレスを吐いていることも原因だった。
このブレスはラフレシア（ポケモンじゃないよ）が枯れるほどである。

それほどまでに臭いのである。

理由・歯を生まれてこの方（かれこれ45年）磨いていないから。
汚ねつ

やつぱり歯は定期的に磨こう!ときには人も襲いつてしまふかもよ!
殺傷力がありすぎる。傷口に入ると妙にしみる。

ささくれが指に合計40近くも出来ていた鼻毛丸は避けた。
死を覚悟するほど妙にしみる。

余談だがこの先生既婚である。

だが、離婚が持ちかけられているといつ噂が職員室内のみに広がっている。

敗因＆アドバイス：口が臭いから。歯を磨けや!!

すんげえ形相でブレスを出した拳句、鼻息も荒かつた。

鼻の中に入つてこるちょっとぴり汚い「ミミ」が飛んでくるほど荒れ。

真に汚ねつ！

この先生とは呼べぬ先生との奮闘はまだ続く・・・。

プロローグの続き（後書き）

作者が極限に眠いため中断するだけです。

ああ・・・・・。

奴の口臭があまりにしきつすぎた。
天に召される5秒前だ。

だいぶ苦しそうな顔をしてくる。

僕はたまらず逃げ出した。
奴は追ってくる。

名前は省略しています

「うひょほほほほほほ

「ええええええええええええ！」

もつもつと女性らしく振るまえや！　　とこうよつな怒号が聞
こえてきそなほどである。

「うわああああああああああ」
「ふはははははは！私の足の速さはチーターに負けるわよー。」
「当たり前でしょ」
「え？ウソ・・・・・・。」

何故か落ち込んでいる。チーターに勝てる人類はない。
ひょっとしたら遠い未来出てくるかもしれない。

奴はふさぎこんだ。動く様子が無い。

だが、近づいてはならない。噛まれるぞ！大腿骨あたりを

何故落ち込むのか理解できなかつた。泣くよつた声も聞こえるが100%嘘泣きだ。

「私のミヅモフ…………。」

突如謎の名前を出した。何だその名前は。どんな生命体だ。

「私のミヅモフ…………。」

み、ミジンコだと！？

見るの難しけれ？餌はどうすんのよ？

「聞いてくれるかね？私のミヅモフが家で飼つてるクリオネにやられたのよ」

「ちなみにクリオネといつのはネコの名前よ」

ネコの名前がクリオネって…………。

ていうかミヅモフとか食べたっけ？

僕は逃げた。ただひたすらに。この後走れなくなつてもいいから逃げた。

セリヌンティウスを助けに行くときのメロスもびっくりするほど速かつた。

韋駄天が振り向いてくれるかと思つたら、彼はTVを見ていた。何故か下界にいた！神様なのに！

家に帰ると韋駄天がいた。どういう状況だ。

ていうかまだ一時間目だったのに学校を抜け出してきてしまつた。

この不良め！

あ、韋駄天が屁をこいた。彼の大幅なイメージダウン！

父が物怖じしながら韋駄天を見つめていた。
何か言えや！

母は三節棍を持っている。姉は変形鎌鎌を手に。
兄は手榴弾を足で持っていた。ピン抜きで

3人に何故か殺意の眼が！

恐い！

般若も裸足で逃げ出しそうなほど恐さ！

それ神様だから！鼻ほじってるけど！

3人が襲いかかったとき、韋駄天は走って逃げた。
さすが速い！

「十円と一銭はもらつた！」
などと叫びながら走り去った。

僕の家つてそんなにお金無かつたつけ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8331i/>

笑えばいいじゃない

2010年10月17日04時02分発行